

自己評価結果公表シート

認定こども園 小樽オリーブ幼稚園

1. 園の教育目標

2017年度

本園はキリスト教の信仰に立って、神を畏れ、隣人を愛して、思いやりのある子ども、健康な子ども、自主性のある子どもを育てることを目標とする。

園児一人ひとりに対して、神と人々に愛されるものとして、成長し、心豊かな人間性を持つよう育成することを目指す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基に設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	取組み状況
幼稚園教育要領の精神を踏まえ、当園の教育理念・教育方針にしたがい編成している。	教育課程を踏まえ園長以下各学年の教諭が自覚的に取り組りくんでいる。当園の教育知念や方針の理解に努め、教育課程の編成にあたっている。
教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	毎年立てる指導計画に従って、子どもの実態に即した内容を組み立てるように努めている。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	教師は日々の記録を参考にして子どもの実態を把握し、月案、週案の作成に反映させるようにしている。
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	各クラス毎の月や週の目標を定め、毎学期ごとに達成状況を報告し合い、反省をするところは反省をし、改善すべきところを改善し、取り組みが足りないところを強化するようにしている。
子どものよさを認めて評価しようとしている。	一人ひとりの子どものよさを認め、教師が客観的に子どもを見る目を養うように努めると共に、支援を必要としているところを見極めて対応するようにしている。
遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	子どもたちが自分で工夫して遊び、それが発展して友だちと協力して遊べる環境を整え、友だちと遊べていない子に対しても、あそべるよう工夫するようにしている。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	登園から降園までの一日の流れのなかで、身に付けてほしい生活習慣の獲得を日々得るように促し、生活習慣が身につけていない子に対してのケアをしている。

全職員が一丸となって、全園児の保育を行うよう連携する。	各教職員が全体の流れを把握し、互いに連絡を行い、お互いの保育を共有することによって、よりよい保育環境を指摘し合うようになっている。
各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	外部の各種研修会や研究会に参加し学んだことを園内研修や資料を基に分ち合う機会を持つことで、共有化を図るようにしようとしている。
園だよりや合同研修会を通して、幼稚園の情報を発信していく。	園の教育方針や取組みを情報発信するように園だよりに記載すると共にし、各クラスでもたよりを出すなどして積極的に取り組んでいく。
保護者との係りを密にし、幼稚園で行われていることが保護者に伝わるようにしていく。	参観日、行事などの取組みを通して保護者と接する機会を作っている。保護者との個人面談を通して子ども様子を伝える。日頃の取組みをどのようにするかが今後の課題である。
園の運営状況や規則なるを把握できるように園内で公開する。	園の財政状況や運営状況について、職員会議などで若干触れることがあったが、十分に伝えたいとはいえない。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>教師一人ひとりが自己評価の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。今後も客観的な目で自らの教育、保育を振り返り、更に充実した実践ができるように努力を積み重ねてほしい。</p> <p>施設面では環境整備をこころがけており、子ども達が安心、安全に遊べる環境になるように努力していて、概ね目標を達成したと考えている。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
情報公開の方法	現在、園だよりや参観日などを通して保護者への理解促進に取り組んできたが、まだ検討の余地があると言えよう。HPは新たにし、ブログは毎週3回程更新しており、保護者が関心をもって見ている。
自己点検、自己評価	各自日頃から互いの話し合いを通して自己についての認識を新たにしているが、この自己評価をすることで更に認識が新たにされている。
指導計画の編成	園の方針に基づいて環境や子どもの成長に係る内容の充実を図り、それに取り組んでいくことを更に十分におこないたい。

6. 学校関係者評価委員会の意見

別紙、委員会報告書に記されている。
